

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
第5学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人

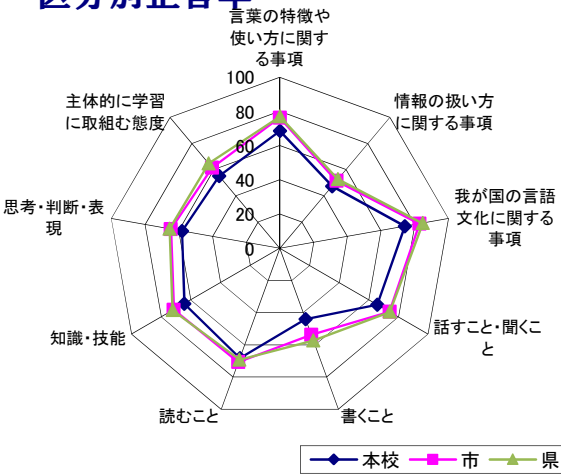
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.6	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	47.5	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	74.2	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	65.7	74.1	74.2
	書くこと	43.9	53.7	57.2
観点	読むこと	68.2	70.7	69.2
	知識・技能	64.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	58.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.2	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

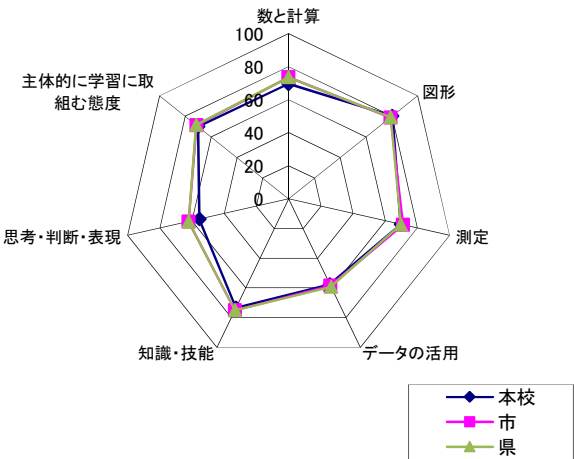
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○主語と述語についての理解は、県の平均とほぼ同じであった。 ●漢字の正答率が県の平均を全て下回っている。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読む」問題の正答率は、県の平均を下回った。	・漢字練習は家庭学習においても取り組ませるなど繰り返し行い、定着させる必要がある。熟語や短文づくりを取り入れながら漢字の習熟を図る。 ・ローマ字の読み方については、授業中だけでなく日常生活の中でも関心がもてるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○国語辞典の使い方は、校内正答率が県の平均をやや上回った。 ●情報と情報との関係(メモと文章のつながり)について理解し、要約したり、考えと理由との関係を明確にして文章を書いたりする問題の正答率が県の平均を下回った。	・今後も子どもたちがいつでも調べられるように、教室の廊下に一人1冊使えるように辞書を置く。 ・友達の発表を聞いたり、大切な話を聞いたりする時には、メモを書かせることにより情報を集めさせ、そこから必要な情報を取捨選択していく力をつけていく。
我が国の言語文化にに関する事項	●漢字のへんやつくりに関する問題の正答率は、県の平均より下回った。	・漢字の指導をする際には、へんやつくりを意識させる指導を行い、漢字練習では、同じへんをもつ漢字を練習させたり、漢字辞典から同じへんをもつ漢字を集めさせて練習させたりする指導を工夫する。
話すこと・聞くこと	●「話し手が伝えたいことの中心を捉えること」「話の中心を明確にした話し方」の正答率が、県の正答率を大きく下回った。	・話の聞き方については、話し手が伝えたいことの中心を捉えることを意識して聞く姿勢を、授業中だけでなく、日常生活においても育てていく。
書くこと	●文章を書くことに関する全ての問題において、県の平均を下回った。 ●「指定された文字数で文章を書く」「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」ことができなかった。	・書くことの前に、何を問われているのか、問題を理解する力をつけさせるために、大切な文やキーワードに線をひいたり、印をつけたりしながら読む習慣を身に付けさせる。 ・書くこと自体に苦手意識があると考えられるので、普段から文章を書く活動を意図的に取り入れて書くことに慣れさせたり、類似問題を解いて問題に対応できるようにしていく。
読むこと	○正答率は、県平均とほぼ同じであった。 ○「場面の様子について秩序をもとに捉える」問題については、よくできていた。	・今後も、文章を読んで感じたことや考えたことをみんなで共有し、読み取りの問題に取り組ませていく。 ・気持ちや様子が表れている表現に着目させることで、記述に即した読み取りができるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.6	73.5	73.6
	図形	80.3	79.0	79.1
	測定	69.7	71.1	69.8
	データの活用	57.6	58.4	59.2
観点	知識・技能	73.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	55.4	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	70.1	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

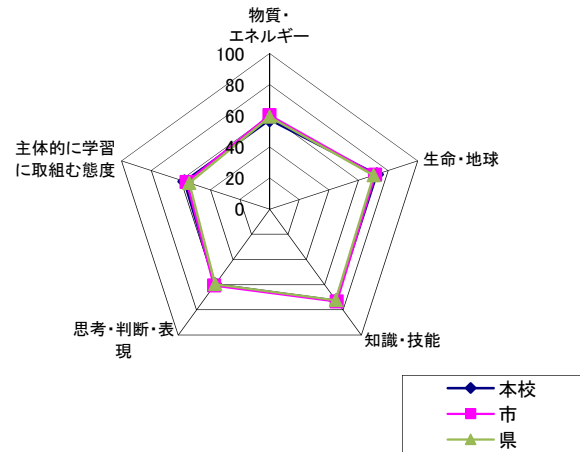
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は県平均を下回った。 ○「3けた－3けた＝3けた(波及的繰り下がりあり)の計算」問題では、正答率が県平均をやや上回っている。 ●「余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明している」問題では、正答率が県平均を下回った。	・文章問題を繰り返し練習することで、慎重に問題を読みとり数量関係の意味を読み取る力を身に付けさせる。 ・問題場面に応じて余りの処理のしかたを考える問題では、具体物や図を用いて場面をよく理解し、問われていることが何なのかを正確に捉え、計算の結果を解釈する方法を身に付けさせる。
図形	○平均正答率は県の平均とほぼ同じであった。 ○「円の半径について理解している」問題と「球の半径から球が1つ入った箱の辺の長さをもとめることができる」問題の正答率は、県の平均とほぼ同じである。	・円については、円の性質を基にコンパスで作図する活動を通して、円についての理解を深めていく。球の概念や性質については、身の回りにある球の形の物を切断した断面を観察したり、物に挟んで球の直径を調べたりするなど、具体的な物の操作や観察を通して理解を深める。
測定	○平均正答率は県の平均とほぼ同じであった。 ○「単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明している」問題の正答率が県の平均を上回った。 ●「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求めることができる」問題の正答率が県の平均を下回った。	・日常生活場面などで、単位や時刻と時間を意図的に取り扱い、習慣化する。 ・時間の経過を数直線や模型時計などを用いて、具体的に考えられるように指導する。計算によって求めようとする児童には、時間の単位は十進法ではないことに留意させる。
データの活用	●平均正答率は県の平均を下回った。 ○「棒グラフを正しく読み取ることができる」問題の正答率は県平均とほぼ同じである。 ●「棒グラフの1めもりの大きさに着目して間違いを指摘している」問題の正答率が県平均を下回った。	・棒グラフについては、学校生活の様々な場面で読んだり表したりする活動を取り入れ、統計的な見方考え方を養っていく。 ・目盛りの大きさが1や10でない棒グラフ(2, 5, 50など)の問題にも取り組ませ、最小目盛りの大きさの求め方を練習する。苦手な児童には、2とび、5とびなどの数直線の学習を振り返らせるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.3	60.2	59.2
	生命・地球	72.3	71.3	70.3
観点	知識・技能	72.6	73.4	72.3
	思考・判断・表現	59.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	57.6	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「磁石の極を確かめる方法を構想する」問題の正答率は、県の平均を大きく上回った。 ●「糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由を説明する」問題の正答率は、県の平均を下回った。 ●物の重さの「実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する」問題の正答率は、県平均を大きく下回った。	・記述式の問題への抵抗を減らすために、普段から文章を書く練習を取り入れる。また、実際に実験を通して確かめるようにする。 ・実験結果を予想し、結果について話し合う活動の中で、仮説を立てるような授業展開を心掛ける。
生命・地球	○平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○「植物の育ち方のグラフから、ハウセンカが良く成長した」問題や「モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する」問題の正答率は、県の平均を上回っている。 ●「正午にできる影の方位を理解する」問題の正答率は、県の平均を下回っている。	・実際に栽培や飼育を行い、その都度、観点を示し観察させたことで知識が定着した。今後も継続して指導していく。 ・方位磁針や温度計など観察で使用する器具については、使い方を教えるだけでなく、誰もが実際に手に触れて使う場面を作ることで、知識として定着できるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、朝食を食べている」で肯定的な回答をした児童の割合は95.5%、「毎日、同じくらいの時刻で寝ている」で肯定的な回答をした児童の割合は82.1%であり、どちらも県平均と市平均を上回っていた。このことより、基本的な生活習慣が身に付いていることがうかがえる。引き続き、各家庭の協力を得ながら、生涯にわたる基本的な生活習慣の定着を図っていきたい。

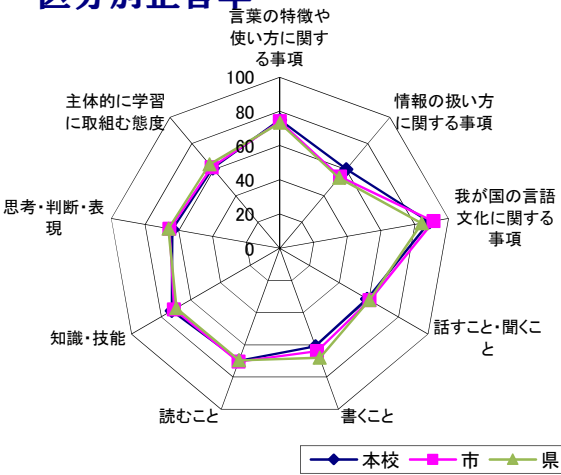
○「自分には、よいところがあると思う」で肯定的な回答をした児童の割合は94.1%で、県の平均を14.1ポイント、市の平均を12.9ポイント上回っている。また、「自分は家族の大切な一員だと思う」で肯定的な回答をした児童の割合は95.5%であった。このことより、自己肯定感の高さが認められる。今後も、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していきたい。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」で肯定的な回答をした児童の割合はどちらも県の平均を下回っている。これらの回答から、どんな家庭学習をすればよいか戸惑っている児童や自分で考えて進んで学習することを苦手とする児童が多い傾向がみられる。工夫して学習に取り組んでいる児童を教室で紹介することによって、意欲を引き出したり、参考にして取り組んだりすることができるように支援したい。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.1	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	60.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.7	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	58.9	60.6	60.4
	書くこと	60.8	63.8	68.0
	読むこと	69.8	70.4	69.6
観点	知識・技能	72.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	63.8	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	61.1	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

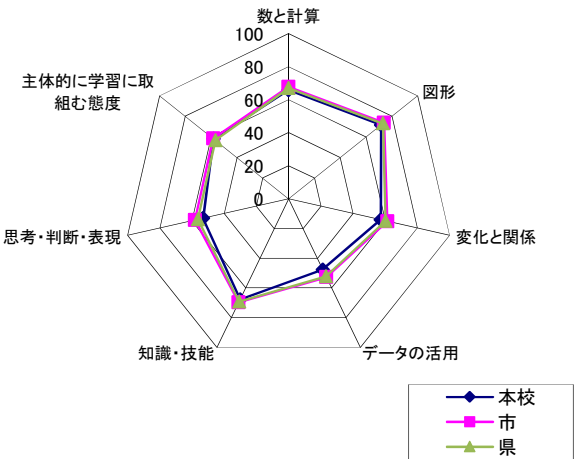
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は、県市の平均よりやや上回った。 ○漢字の読み書きは、正しくできている。 ●修飾語の正答率が、県の平均を下回った。	・普段から、主語、述語、詳しく説明する言葉(修飾語)を意識した会話を心掛けられるようにする。 ・文章を読んだり書いたりするときには、文の組み立てに注意するようにする。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は、県や市の平均を上回った。 ○漢字辞典の使い方は、良く理解している。 ●「情報を正しく理解し、指定された条件で文章を組み立てる」問題の正答率は、県の平均とほぼ同じだったが、半数であった。	・問題の意図を正しく読み取り、自分の立場を明確にして、自分の考え、考えた理由、伝えたいことの順序で分かりやすい文章が書けるように、繰り返し指導する。 ・今後も子どもたちがすぐに調べられるように、身近な場所に辞書を置くようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、県の平均より上回り、市の平均より下回った。 ○ことわざの意味をおおむね理解している。	・普段から、より多くのことわざや故事成語に触れる機会を作り、定着を図る。
話すこと・聞くこと	○「司会者の役割を果たしながら話し合う」、「相手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ」問題の正答率は、県の平均とほぼ同じ値であった。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉える」問題の正答率が低い。	・話を集中して聞きながら、頭の中で要約したり、順序立ててメモを取ったりする練習を繰り返していくことで、話し手が伝えたいことが捉えられるように指導する。
書くこと	●平均正答率は、県や市の平均を下回った。特に「アンケート調査の結果から読み取ったことを文章に書く」問題の正答率は低い。 ●時間配分がうまくいかず、最後の問題までたどり着けず、無回答の児童が多かった。	・資料から読み取ったことを整理し、自分の立場を明確にして、自分の考え、考えた理由、伝えたいことの順序で分かりやすい文章が書けるように、繰り返し指導する。
読むこと	○平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じであった。 ○「物語文を読んで、登場人物の気持ちを適切に捉えること」ができていた。 ●「物語文を読んで、登場人物の気持ちや情景について内容をまとめたり、別の言葉で言い換えたりすること」ができた児童が半数以下で、県の平均を下回った。	・文章の中の大切な言葉や文を見つけてまとめ、分かりやすく書きかえたり、言葉をおぎなったりして、まとめる練習を繰り返す行う。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.9	67.8	67.0
	図形	71.7	73.9	73.1
	変化と関係	57.2	61.4	60.2
	データの活用	47.6	52.7	52.1
観点	知識・技能	67.7	69.7	69.2
	思考・判断・表現	53.1	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.2	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

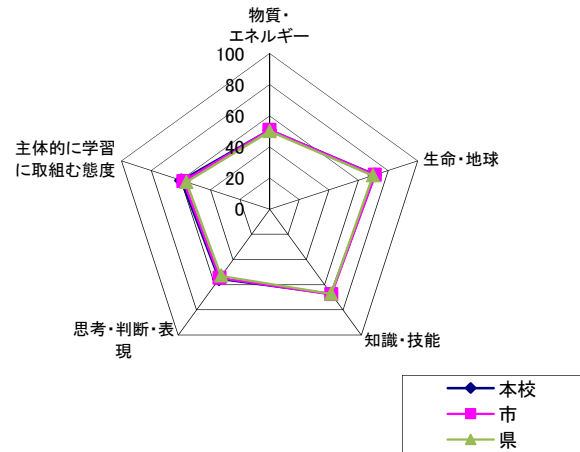
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数の相対的な大きさについて、特に1000万を基とする考え方で数をあらわす考え方は、県の平均よりも高い。 ○四則の混じった計算で、筋道を立てて計算することができており、県の平均よりも高い。 ●「数直線上に示された分数の読み取り」「大きな数を四捨五入して概数で表すこと」の正答率が県の平均よりも低い。 ●「図や数直線を使って立式する」問題の正答率が、県の平均よりも低い。	・小数・分数・大きな数などの四則計算や、図と式の関係についての問題に繰り返し行い、習熟を図る。 ・概数の表し方で四捨五入の意味や、上から○桁の概数にするような問題の意味が理解できるように、継続して練習をする。 ・基本的な数直線を使った問題に多く取り組ませ、文章問題を解く時には、図や数直線を使って解けるように習慣化させる。
図形	○コンパス・定規を使って四角形を作図する力が身に付いている。 ●「分度器を用いて角度を正しく読み取る」問題の正答率が、県の平均よりも低い。	・定規や分度器を用いて測定する活動を多く取り入れ、作図に慣れ親しむことができるよう引き続き指導する。 ・身の回りの様々な角の大きさを測定したり、かいたりする活動を豊富に取り入れ、角の見方や分度器の仕組みを理解できるようにする。
変化と関係	○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める力は、県や市の平均とほぼ同じである。 ●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題の正答率が約1/4であり、県の平均よりも低い。	・文章を読んで場面の様子を思い浮かべられるように、体験活動を取り入れる。 ・具体物の操作から数量の変化を表に表し、2つの数量の変化のきまりや規則性に気付けるように、話し合う場を設けるなど工夫する。
データの活用	○表を読み取る力は、県と比較しても高い。 ●「2つの折れ線グラフ」「棒グラフと棒グラフ」など複数のデータから読み取ったことを、言葉や数字を使って説明する問題の正答率は、県の平均よりかなり低い。	・日常活動の中で、表やグラフに表したり、説明したりする機会を意識的に設け、身近な問題として捉えられるようにする。 ・グラフを比較するときは、それぞれの目盛りの幅や数値などに気を付けるように指導する。 ・複数のグラフを比較し、変化の大きさや増え方の大きさの違いについて考えたことを話し合う場を設けるなど工夫する。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.9	50.8	50.0
	生命・地球	71.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	67.2	67.6	67.2
	思考・判断・表現	55.2	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	59.6	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○「乾電池を直列つなぎと並列つなぎにした時の検流計の針の振れ方を推測することができる」問題の正答率は、県の平均を上回った。 ●「直列つなぎを理解している」問題の正答率は、県の平均を下回った。 ●「水のすがたについて理解している」問題の正答率は、県の平均を下回った。	・自分の考えを発言する場や授業の振り返りをノートに書く場面で、学習した理科の用語を積極的に用いるような助言をし、知識として自然に身に付くようにする。 ・授業で行う実験や観察が日常生活のどの場面と結びついているのかこまめに説明を加えることで、科学的な事象と実生活が関連付けて考えられるようにし、知識・理解が確実に身に付くようにする。
生命・地球	○平均正答率は、県の平均大きく上回った。 ○「オオカマキリの季節ごとの様子について理解している」問題の正答率は、県の平均を上回った。 ○「水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解している」問題の正答率は、県の平均を大きく上回った。また、「土の粒の大きさとはけの関係を推測できる」問題の正答率は、県の平均を上回った。 ●「ヘチマの実の変化のようすを理解している」問題の正答率は、県の平均を下回った。	・植物や星空の観察といった学習活動において、観察記録をタブレットPCで撮影し、個人で蓄積していくことで、変化する様子を児童がこれまで以上に実感をもって捉えられるようにする。 ・自然現象への興味・関心の高さや、現象の理解を今後も持続させるために、自然現象を体験する機会を多く設け、実感を伴った知識を身に付けられるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に何冊ぐらい本を読みますか」で5冊以上読んでいると回答をした児童の割合は57.9%、県の平均を11ポイント、市の平均を10.1ポイント上回っていた。このことより、積極的に図書室を利用し、読書を楽しんでいる児童が多いことが分かる。引き続き、図書室を利用する時間を設けたり、図書室の環境を整えていく。

○「早寝、早起きを心がけている」で肯定的な回答をした児童の割合は87.7%で、県の平均を11ポイント、市の平均を10.4ポイント上回っていた。このことより、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度が育ってきていることが分かる。引き続き、各家庭の協力を得ながら、生涯にわたる基本的な生活習慣の定着を図っていききたい。

○「自分には、良いところがあると思う」で肯定的な回答をした児童の割合は87.7%で、県の平均を10.8ポイント、市の平均を9ポイント上回っていた。このことより、自己肯定感の高さが認められる。今後も、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していききたい。

●「学校の授業時間以外に、普段どれくらいの時間、勉強をしますか」「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の回答について、肯定的な回答をした児童の割合がすべて県の平均を下回っている。これらの回答から、自ら進んで学習することが苦手な傾向がみられる。今後、児童に学習することの大切さを折に触れて話し、自主学習にどのように取り組むかを具体的に指導していくとともに保護者への啓発を図る。また、1人1台端末を活用することで、自分から学習しやすい環境を作り、学習意欲を高めたい。

宇都宮市立西が岡小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	○興味を高める導入を工夫する。 ○体験的な活動や課題解決的な学習を積極的に取り入れる。 ○自力で課題解決にあたる時間を確保する。 ○状況に応じた学習形態を工夫する。	・4年生は、勉強におもしろさを感じ、疑問に思ったことは調べたいという学習意欲が県の平均より高い。 ・国語では、「情報の扱い方に関する問題」の国語辞典や漢和辞典の使い方については、ほとんどの児童が市や県の平均を上回っている。 ・算数の授業以外でも、定規や分度器を使って作図する活動に慣れ親しんできたため、作図の力は伸びている。
分かる授業を目指した授業力の向上と基礎・基本の徹底	○「西が岡スタイル(つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる)」を取り入れた授業を実施し、学習内容の定着を図る。 ○個に応じた支援(児童の実態に応じた言葉掛け、学習方法、教材など)を工夫する。 ○単元や学期ごとに復習する場を設定する。	・4・5年生ともに「授業のノートにめあてとまとめを書いている」と肯定的に回答した割合は、市や県の平均を上回っている。また「学習の流れ」を提示することで、安心して授業に取り組むことができていると考えられる。今後は、学習形態を工夫し、多様な考え方や表現に触れさせるなどして思考力を育て、更なる内容定着を図る必要がある。 ・国語では、物語文を読んで登場人物の気持ちを適切に捉えることや、場面の様子について叙述をもとに考えることは、4・5年ともに県平均とほぼ同じであった。 ・理科では、全般に県・市の平均と同程度で定着が図れている。しかし、物の重さの「実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する」の問題の正答率は、県平均を下回っているため、実験や観察方法についての話し合いを充実させたい。
家庭学習の習慣化を図り、基礎学力の定着を図る	○学年毎に適切な分量・内容の宿題を提示し、家庭学習の習慣化を図る。 ○「学習チャレンジ週間」を実施し、家庭と連携して学習習慣の定着と意欲の向上を図る。 ○「リレー自主学習」に取り組むことで自主学習の活性化を図るとともに、友達の学習内容を参考にできるようにする。 ○学年・学級懇談会や学年だより等あらゆる機会を通じて、保護者の児童への声掛けがやる気を育てることを知らせる。	・家で学校の宿題をしていると肯定的に回答している割合は、市・県の平均よりも高い。しかし、自分で計画を立てて、予習や復習、自分で考えた学習をしていると回答している割合は、市・県の平均を下回っている。このことから、宿題をやる習慣は身に付いているので、今後は学習内容の充実を図るため、様々な取り組みを通じて、また家庭との連携を図って個に応じた指導を行っていききたい。